

下流域ワーキングでの報告

会議名	開催日時	場所	出席者
下流域ワーキング	平成28年2月 8 日(月) 13:30~16:30	加古川総合庁舎5階 A、B、C会議室	30名

内 容 :

- (1) H27年度の災害発生状況等
- (2) 加古川流域圏（下流域、法華山谷川流域）のフォローアップ
- (3) 出席者からの取組み事例紹介

内 容	発表者	
平成27年度の災害発生状況	加古川土木事務所 河川砂防課 松井課長	資料6-別紙p.1
主な取組み一覧表および位置図	加古川土木事務所 企画調整担当 木本所長補佐	資料6-別紙p.2
各戸貯留の取組み	加古川市 治水対策課 正中副課長	資料6-別紙p.4
治水対策事業の取組み	高砂市 治水事業課 井上係長	資料6-別紙p.5
ため池に関する防災の取組み	稲美町 土木課長 本岡課長	資料6-別紙p.6
播磨町総合防災マップの更新	播磨町 危機管理グループ 武田統括	資料6-別紙p.7
法華山谷川中流部左岸の防災減災の取組み（富木地区からの報告）	富木攻氏	資料6-別紙p.8
「ジュニア防災スクール」「自主防災組織等パワーアップ講座」の取組み	東播磨県民局 総務防災課 名越課長補佐	資料6-別紙p.9
法華山谷川の取組み	加古川土木事務所 復興事業課 前田課長	資料6-別紙p.10
曇川ポンプ場の取組み	加古川土木事務所 河川砂防課 松井課長	資料6-別紙p.13
インターンシップの取組み	配布のみ	資料6-別紙p.14
下流域ブロックの説明資料	配布のみ	省略
フェニックス共済のパンフ	配布のみ	省略

事例発表項目		会議	意見交換	
【別紙p. 4】 各戸貯留の取組み 〔加古川市〕	ためる 広報、啓発	下流WG	・今年度の実績を踏まえ、今後の 広報の仕方を教えてほしい	・広報誌、ホームページで周知し、新聞にも取り上げられた。また、公民館等に貯留タンクを設置しPRした。今後は、ホームセンターなど販売場所でもPRしたい。
	ためる 広報、啓発	下流WG	・大雨前にタンクを空にすることの周知方法を、教えてほしい	・助成金の申請受付時に周知している。
	ためる その他	下流WG	・貯留タンク設置後、利用の調査を実施してるのか。	・設置完了を確認しているが、利用方法の調査は行っていない。今後考えていきたい。
	ためる その他	下流WG	・助成金は総額の1/2、上限3万円であるが、市場価格を教えてください。	・樽型などの修景したタンクを購入した場合や、設置工事費が加わることでより総額6万円を超える場合もある。
	ためる 学校・公園	下流WG	・次の展開として、校庭や公園貯留への試みはあるのか。	・建設中の市民病院の地下貯留槽、加古川駅前の道路下の貯留槽で取り組んでいる。今後も貯留と浸透の機能確保に取り組んでいきたい。
【別紙p. 5】 治水対策事業の取組み 〔高砂市〕	ながす ゲリラ豪雨	下流WG	・ゲリラ豪雨により、最近は側溝の氾濫の頻度が増えてきたが、対応や対策はあるのか。	・行政でも調査をしているが、住民要望を出来るだけ吸い上げて対応している。その際、写真等の提供があれば有効である。対策は、緊急性の高いところから側溝等の排水能力を上げることになる。
【別紙p. 6】 ため池に関する防災の取組み 〔稲美町〕	ためる 事前放流	下流WG	・雨の降る時期と田んぼに水が必要な時期が重なる。	・ため池の水を落とし、（雨が降らなければ）用水が無くなり、空振りになる。水利関係者と協力し取り組んでいる。
	ためる 事前放流	下流WG	・事前放流する時、下流への影響はあるのか。	・雨の降る前に放流し、雨が降ったら吸収しており、大きな影響はない。
				・放流する際は、影響ある下流にお知らせする。
			・下流のことを考え、上流が動くことは非常に重要な観点である。	

【別紙p. 7】 総合防災マップの更新 〔播磨町〕	そなえる 防災マップ	下流WG	・防災マップはありがたい。一方、地域では、障がい者など災害弱者の方を伴って、どのように逃げるのか、大きな課題もある。	・要望があれば、避難行動要支援者台帳を自主防災組織へ情報提供する等、地域で助けあう取組みを大事に支援していきたい。
	そなえる 防災マップ	下流WG	・防災マップは、水が出たとき、どこに逃げるか常に見ておくことは非常に重要である。一方、雨の音が大きく防災無線の音が聞こえないこと、浸水時に2階に避難したが水位上昇により平常心でいれないこと等、体験された方々の意見を大事にして、取り組んでほしい。	・住民の方の意見は大切である。また、マップ作成の検討委員会は住民の方も参画している。
				・平成23年に避難情報を防災無線で放送したが、聞こえにくかったとの指摘を受けた。現在は、テレドームサービスやサイレンを1分間鳴らすこと等で周知を図っている。また、いわゆる逃げ時マップ、タイムライン的な考えは有益である。
				・事前に準備しても、状況が想定どおり動かない場合、各人の判断を要することとなる。訓練も必要ではないか。また、訓練内容も考えていく必要もある。
【別紙p. 8】 法華山谷川中流部左岸の 防災減災の取組み（富木 地区からの報告） 〔富木攻氏〕	ためる そなえる 地域連携	下流WG	・防災組織の構成員には、公務員、消防士、看護師等もいるが、いざ災害の時に抜けてしまい、弱い人が残る可能性がある。	・構成団体が連携して上手く機能させることが大切である。例えば、農業者の立場からは逃げていく場所の提供など考えられる。
【別紙p. 9】 「ジュニア防災スクール」 「自主防災組織等パ ワーアップ講座」の取組 み 〔県民局総務防災課〕	そなえる 防災学習	下流WG	・フェニックス共済の契約率が低い理由はどこにあるか。	・チラシ配布、出前受付等により、契約促進に取り組んでいるが、まだ知名度が低い。可能ならテレビの活用、イベントの機会等で引き続き広報に努めていく。
【別紙p. 13】 曇川ポンプ場の取組み 〔加古川土木事務所〕	ながす 河川対策	下流WG	完成する曇川ポンプ場に管理人は常駐するのか。	・現在、職員が1名常駐し、日常の点検管理を行っている。また、洪水時は増員して運転管理を行っている。完成後も、同様の体制で管理していく。